事例番号:380184

原 因 分 析 報 告 書 要 約 版

産 科 医 療 補 償 制 度
原因分析委員会第一部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

経産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 35 週 2 日

時刻不明　胎動減少のため搬送元分娩機関受診

22:01- 胎児心拍数陣痛図で基線細変動減少、一過性頻脈なし、軽度遅発一過性徐脈あり

23:04　超音波断層法で胎児脳室拡大あり

妊娠 35 週 3 日

0:10　妊娠高血圧症候群、胎児機能不全、胎児脳室拡大疑いで当該分娩機関へ母体搬送され入院

4) 分娩経過

妊娠 35 週 3 日

1:36　胎児機能不全、妊娠高血圧症候群のため帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

⑴ 在胎週数:35 週 3 日

⑵ 出生時体重:2000g 台

⑶ 臍帯動脈血ｶﾞｽ分析:pH 7.31、BE -1.4mmol/L

⑷ ｱﾌﾟｶﾞｰｽｺｱ:生後 1 分 3 点、生後 5 分 7 点

⑸ 新生児蘇生:人工呼吸(ﾊﾞｯｸﾞ・ﾏｽｸ)

⑹ 診断等:

出生当日 低出生体重児、新生児仮死、脳室内出血、出血性水頭症

⑺ 頭部画像所見:

出生当日 頭部 CT で両側脳室の拡大、両側脳室出血を認め、第 3 脳室、中脳水道、第 4 脳室にも出血を認め、脳室内出血から水頭症に至った所見あり

6) 診療体制等に関する情報

〈搬送元分娩機関〉

⑴ 施設区分:病院

⑵ 関わった医療ｽﾀｯﾌの数

医師:産科医 1 名

看護ｽﾀｯﾌ:助産師 2 名

〈当該分娩機関〉

⑴ 施設区分:病院

⑵ 関わった医療ｽﾀｯﾌの数

医師:産科医 2 名、小児科医 1 名、麻酔科医 1 名、研修医 1 名

看護ｽﾀｯﾌ:助産師 1 名、看護師 2 名

2. 脳性麻痺発症の原因

⑴ 脳性麻痺発症の原因は、出生前に生じた児の脳室内出血であると考える。

⑵ 早産期の児の脳血管の特徴を背景に、臍帯血流障害等による胎児の脳の血流の不安定性が、脳室内出血の発症に関与した可能性がある。

3. 臨床経過に関する医学的評価(2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

外来における妊娠管理は一般的である。

2) 分娩経過

⑴ 搬送元分娩機関における胎動減少で受診した際の対応(分娩監視装置装着、血圧測定、超音波断層法実施)および妊娠高血圧症候群、胎児機能不全、胎児脳室拡大疑い(「原因分析に係る質問事項および回答書」による)と診断し母

体搬送したことは、いずれも一般的である。

⑵ 当該分娩機関における母体搬送受け入れ後の対応(分娩監視装置装着、血液検査、ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定、超音波断層法実施)および胎児機能不全、妊娠高血圧症候群と診断し、帝王切開を実施したことは、いずれも一般的である。

⑶ 臍帯動脈血ｶﾞｽ分析を実施したことは一般的である。

⑷ 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児蘇生(ﾊﾞｯｸﾞ・ﾏｽｸによる人工呼吸)は、一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

⑴ 搬送元分娩機関

なし。

⑵ 当該分娩機関

なし。

2) 搬送元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

⑴ 搬送元分娩機関

なし。

⑵ 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

⑴ 学会･職能団体に対して

なし。

⑵ 国･地方自治体に対して

なし。